新年のごあいさつ

紙パルプ技術協会 理事長 黒澤 易彦

New Year's Speech

Yasuhiko Kurosawa

President : JAPAN TAPPI

会員の皆様、明けましておめでとうございます。
平成 11 年度の年頭に当たり一言ご挨拶申し上げます。

世界の経済情勢は現在混迷状況にあります。世界の成長センターとして堅調に成長を続けてきたアジアの NIES や ASEAN 諸国が、一昨年金融・通貨危機により経済破綻し、中国等一部の国を除き昨年はマイナス成長となりました。ロシアも経済破綻と政治不安の混迷状況が続けております。これらの地域の経済混乱が、世界経済に多大な悪影響を与えています。輸出の不振で欧州経済も低迷しており、好況を続けてきた米国の経済成長にもかげりが見え始めております。世界経済の混迷状況はアジア経済の回復まで数年続くと考えざるを得ません。世界の紙パルプ産業も成長が低下し、供給過剰による価格低迷から脱出できていません。このような状況の中で、欧米諸国を中心に国境を越えた大型合併やリストラクチャリングが、企業の生き残りをかけて進められています。経営破綻したアジアの新興紙パルプメーカーも、これらの巨大資本の枠組みに組み込まれつつあります。

一方国内経済は、バブル崩壊の後遺症である金融不安が続き、またデフレ色を強めており、景気は足踏み状態からさらに悪化し、後退状態にあります。政府は金融安定化や景気対策を進めていますが、経済のスピードについていけず、未だ十分な効果が得られていません。世界情勢を考慮すると、国内の景気低迷は長期化するものと判断せざるを得ません。紙パルプ産業も例外ではなく、需要の減退と価格下落により最悪の状況にあります。業界をあげて減産を強化しておりますが、需要の減退により過剰在庫の削減は思うようには進んでいません。昨年の秋から各社が価格修正に取り組んでいますが、内外の経済状況を考慮すると、楽

観視は出来ません。業界としては、早期の金融安定化と経済回復を望みたいものです。

さて昨年の紙パ年次大会の基調講演でも述べた、業界の中長期課題について簡単に触れてみたいと思います。21 世紀に業界が生き残るためには、環境を重視した循環型産業の完成を目指す必要があります。そのためには資源、環境、エネルギーの 3 つの課題が最も重要と考えます。資源に関する課題としては、木材資源の安定的確保を目指した植林の推進と、古紙の利用拡大があります。植林においては、バイオ技術の応用による有利樹種の開発や、育種技術の開発などの技術課題があります。また植林は、炭酸ガス固定化という重要な側面もあり、自然環境との調和を配慮し、積極的に推進する必要があります。古紙の利用拡大については、2000 年までに利用率を 56%にするという業界目標があります。目標達成のためには、古紙処理技術の改善・再生紙の高品質化・雑誌古紙の洋紙分野での活用などの技術課題を、早期に解

決する必要があります。環境・エネルギーに関しては、地球温暖化防止への取り組みが最も重要です。前に述べた植林や古紙利用の拡大に加えて省エネルギーの推進が重要課題であり、2010年までに購入エネルギー原単位を、10%削減する業界目標があります。従来型の省エネルギーに加え、抄紙工程での大幅な省エネルギー等新たな技術開発も必要です。また紙ゴミ問題の解決手段として、再資源化が困難な低質古紙をサーマルリサイクルとして活用するためのシステム作りも重要課題と考えています。

21世紀に向け、紙パルプ産業が最も環境に優しい産業になるよう、技術者が中心になって、循環型産業の完成を目指そうではありませんか。

次に技術協会の運営について述べます。昨年度の主な定例行事について列挙しますと、国際会議では、10月にカナダ・ケベック市のPan Pacific and International Printing and Graphic Arts Conferenceに参加しました。国内では2月に「USA クラスタールール説明会」と「パルプ基礎講座：機会パルプと非木材パルプ」を、6月に「第65回紙パルプ研究発表会」と「環境セミナー」を、7月に「省エネルギーセミナー：温暖化防止に向けての対策事例」と「講演会：電気貯蔵技術の現状と今後の動向」を、9月に「抄紙技術セミナー：ウェットエンド技術の基礎と応用」を、10月に「講演会：Self-organization of some unusual cellulose esters」11月に「パルプ技術セミナー：古紙を知ろう」と「計装技術発表会」を開催しました。セミナー・講演会・発表会共好評で多数の参加者のもと活況を呈していました。

昨年の年次大会は10月14日～16日の3日間、

釧路市観光国際交流センターで開催しました。参加者951名、一般講演件数62件、展示会社数77社と地方大会としては最大規模の大会となりました。特別講演として帯広畜産大学・福井教授による「めん羊と共に26年」と釧路市丹頂鶴自然公園・高橋園長による「釧路湿原とタンチョウ」についてお願いし、大変好評でした。一般講演は始めて3会場で開催し、賛助会員会社の講演件数を大幅に増やし充実させました。ホスト工場として大会の準備・運営にご尽力いただいた王子製紙(株)釧路工場の皆様を始め、大会関係各位に厚く御礼申し上げます。

次に今年度の主な行事について申し上げます。セミナーや講演会は昨年とほぼ同様ですが、各専門委員会では一層の充実を図るべく準備を進めています。今年は国際会議として6月にISWC (International Symposium on Wood and Pulp Chemistry) を横浜で開催します。この関係で第66回紙パルプ研究発表会は11月の紙パ年次大会と同時開催の予定です。年次大会は、三菱製紙(株)八戸工場がホスト工場となって11月の10日～12日に盛岡市で開催します。一層充実する協会の各種行事に、皆様方の積極的な参加をお願い申し上げます。

皆様方のお役に立つ協会となるために、「協会の将来を考える会」の提言に添ってこれまで積極的に活動を進めてきました。今年は、提言内容の一部見直しを行い、活動内容を充実させる所存ですので、皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

年頭に際し、会員の皆様の益々のご多幸とご活躍を祈念し、新年のご挨拶と致します。